

吾妻山公園基本計画・基本設計

(概要版)

平成 22 年 3 月

神奈川県二宮町

I. 計画の概要

I-1 計画の目的

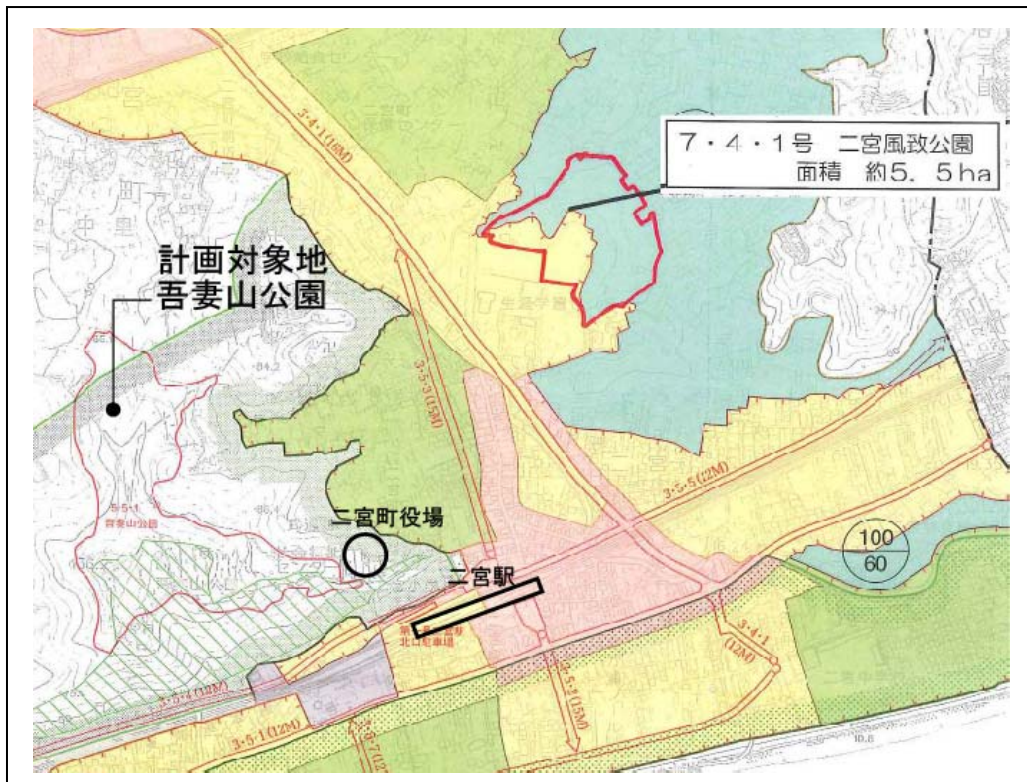
本計画は、吾妻山公園の老朽化した公園施設の再整備を行うための基本計画並びに基本設計の立案を目的とする。本計画の作業にあたっては、町内はもとより県内外からの利用者の安全・安心の確保と利用の向上に資するために、老朽施設の改修、公園内のバリアフリー化や魅力度の向上につながる新たな施設の導入などを検討する。なお（仮称）二宮風致公園との連携による本町の自然環境資源等のさらなる活用やまちの活性化につながる公園ネットワークの構築についても検討する。

I-2 計画対象地

本計画の対象地は以下の通りである。

場所：①吾妻山公園（神奈川県中郡二宮町山西地内）

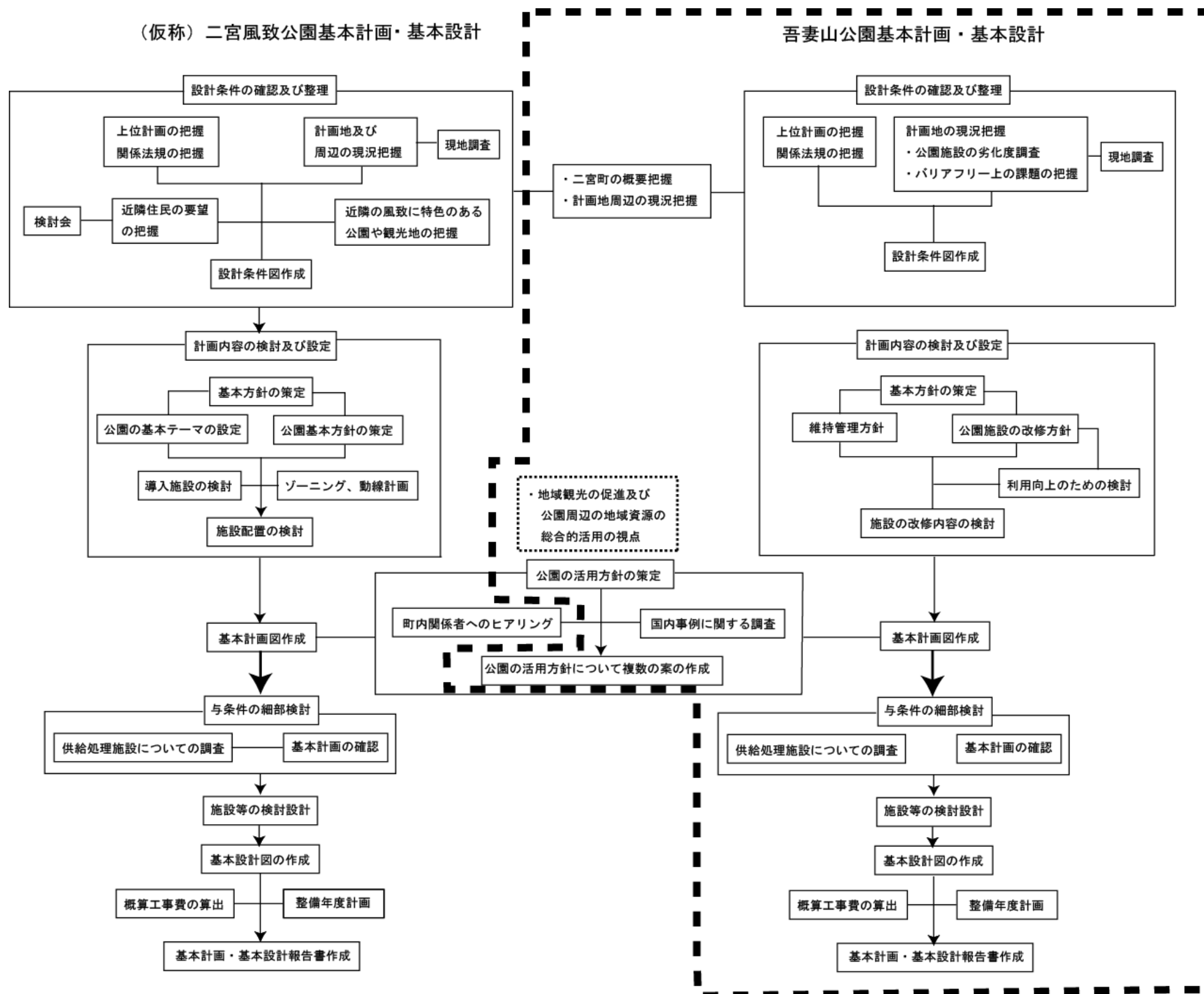
面積：②総面積約 11.2ha のうち約 1.5ha について重点的に設計を行う



吾妻山公園

I-3 計画策定のフロー

本計画は、以下の計画策定のフローにしたがって作業する。



本業務における計画のフロー

計画策定のフロー図

Ⅲ. 吾妻山公園基本計画

Ⅲ-1 設計条件の確認及び整理

1. 計画地の現況把握

1) 吾妻山公園現況解析

① 入口から管理棟まで

- ・ エントランス部分は、急勾配の階段である。
- ・ エントランスの階段部分の手すりとフェンスは老朽化している。
- ・ エントランスの途中の擬木の階段部分は、幅員が狭く、拡幅が必要である。
- ・ 南側の斜面には階段の途中につながる比較的ゆるやかな山道が残っている。
- ・ 階段を登りきったところには四阿やベンチなどの休憩施設があり市街地への展望が得られるが、樹木の成長で海への展望はかなり阻害されている。
- ・ 階段の後の園路は、比較的緩やかな勾配であるが、樹木で展望が遮られており、間伐や剪定が必要である。
- ・ 園路沿いには多くのスイセンが植えられ、一部にはアジサイも植えられている。
- ・ 土系舗装が、長年の雨水による浸食で凸凹になっている。
- ・ 途中のツツジ園内からの展望は良好であり、湘南の海が望める。
- ・ 境内脇の園地は、残念ながら展望が開けず、今後改善のためにイヌシデ等の樹木の剪定が必要である。
- ・ 既存の管理・トイレ棟は、出入り口が階段であり、トイレは狭く柱の腐食がある。建て替えやバリアフリー化が必要である。

② 管理棟から展望台まで

- ・ 遊具のジャンボエイトは、人気のある遊具であるが、木製であることからいたるところに腐食が見られる。
- ・ ローラー滑り台は、子ども達に人気である。
- ・ その他の木製アスレチック遊具も、設置後 25 年が経過し、相当老朽化が進んでいる。
- ・ 頂上の展望台周辺は、富士山をはじめ海や丹沢の眺望が望め、極めて良好な場所である。
- ・ 菜の花越しに望む富士山は、絶景であり名所にふさわしい。
- ・ 展望台のある芝生広場からは、樹木で湘南海岸方面が見えにくくなっている。
- ・ 芝生広場にある四阿から海への眺望は成長した樹木で阻害されている。
- ・ 展望台裏のトイレは、広場から視認しにくく、あまり利用されていない。

③ 管理棟から中里口まで

- ・ 管理棟から中里口に向かう園路は、部分的に幅員の狭いところがあり、拡幅が必要である。

- ・園路沿いに設置されている柵は簡易なロープ柵であり、単に園路幅を認識させるためのサインとしての役割しか果たしていない。
- ・コンクリート舗装の端部が段差になっているところがあり、危険である。
- ・小動物園は、現在ウサギしか居らずほとんど利用されていない。
- ・小動物園の上方にある四阿は、老朽化しており危険である。また周囲を樹木が覆っているため遠方への展望が得られなくなっている。
- ・小動物園のトイレは老朽化が進み、ほとんど利用されなくなっている。
- ・中里口に向かう途中の沢沿いに、日当たりが悪く老朽化した四阿がある。

④吾妻山公園の利用者数

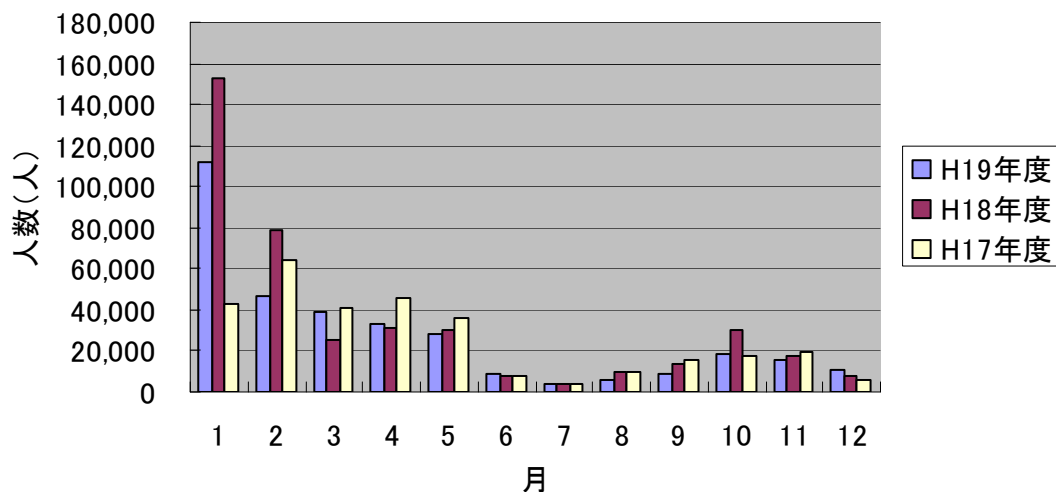
吾妻山公園の利用者数は、以下の表とグラフに示すように1月から3月にかけてピークがあり、5月までの利用者数が年間利用者数の約7～8割に達する。一般的な公園と比較すると、極めてまれな公園と言える。

計画策定にあたっては、これらの特性を充分活かした計画が必要となる。

吾妻山公園利用者数

月	平成19年度		平成18年度		平成17年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1月	111,687	33.8	152,838	37.3	42,578	13.8
2月	46,848	14.2	79,036	19.3	63,822	20.7
3月	38,909	11.8	24,869	6.1	40,443	13.1
4月	32,705	9.9	31,246	7.6	45,809	14.9
5月	28,608	8.7	30,528	7.5	35,733	11.6
6月	9,059	2.7	7,834	1.9	8,226	2.7
7月	3,895	1.2	3,933	1.0	3,463	1.1
8月	5,639	1.7	9,536	2.3	9,426	3.1
9月	8,407	2.5	13,996	3.4	15,515	5.0
10月	18,965	5.7	29,864	7.3	17,419	5.7
11月	15,126	4.6	17,839	4.4	19,404	6.3
12月	10,465	3.2	7,961	1.9	6,223	2.0
合計	330,313	100.0	409,480	100.0	308,061	100.0
1～3月計		59.8		62.7		47.7
1～5月計		78.3		77.8		74.1

吾妻山公園月別公園利用者数



2. 設計条件の整理

吾妻山公園の設計条件を整理するにあたっては、まず解決すべき課題を整理し、その上で設計条件を設定した。

1) 解決すべき課題

まず、解決すべき課題を以下に整理した。

(老朽施設の改修)

- ・建築物、遊具、その他公園施設について行った劣化度調査結果に基づき、必要なリニューアルの検討を行う必要がある。
- ・小動物園一帯は、老朽化し近年利用されることが少なくなっており、新たな魅力的な施設として全面的なリニューアルを検討する必要がある。

(バリアフリー化)

- ・管理棟・休憩所、便所などの施設のバリアフリー化と管理棟から展望台へのバリアフリー園路の整備を検討する必要がある
- ・駅方面からの利用者が多いため、特に高齢者の利用を容易にするためのアクセスの改善を検討する必要がある

(魅力度の向上)

- ・吾妻山公園は菜の花で有名な公園である。菜の花は春をイメージさせる植物であることから、春は吾妻山公園というイメージをより高めるために、3月～5月の春本番に特色のある花で観光客を惹きつけることを検討する必要がある。
- ・かつての山頂付近や園路などからの展望を取り戻すために、樹木の適切な間伐や剪定を検討する必要がある。
- ・駅や国道などから公園への観光客を取り込むために、そうしたところから容易に確認できる特色づくりを検討する必要がある。
- ・本町の観光資源として、新たに整備される風致公園と連携して本町の魅力を高められるような工夫、たとえば春は吾妻山公園、秋は風致公園等の観光資源として相互に補完しあえるような関係づくりや、二つの公園をつなぐ連絡路やサインの検討、情報の共有化等、可能な対応を検討する必要がある。
- ・広く情報の提供を通じて集客アップにつなげるために、山頂付近にウェブカメラの設置を検討する必要がある。
- ・利用者の利便性向上のために、園内放送設備の検討を行う必要がある。

2) 設計条件

上記の解決すべき課題から、以下の通り設計条件を設定する。

(老朽施設の改修)

- ・管理棟やトイレなどの建築物、遊具、園路や柵などの老朽化した施設のリニューアル
- ・小動物園一帯のリニューアル

(バリアフリー化)

- ・管理棟・休憩所、トイレのバリアフリー化
- ・管理棟から展望台にかけての園路のバリアフリー化
- ・高齢者でも利用しやすい駅方面からのアクセスの改善

(魅力度の向上)

- ・観光資源としてのグレードアップに向けての魅力的な施設の導入
- ・山頂付近で眺望が樹木によって阻害されているところの間伐・剪定
- ・駅や国道から見える場所の特色ある景観づくり
- ・二宮風致公園と互いの魅力を高めるような工夫
- ・山頂付近のウェブカメラの設置
- ・園内放送施設の設置

Ⅲ－２ 計画内容の検討及び設定

1. 計画の基本方針の設定

計画のコンセプト、計画のテーマ並びに計画の基本方針を以下に整理した。

1) 計画のコンセプト

より多くの利用者を惹きつける公園にするために、吾妻山公園のさらなる魅力度アップにつながるようリニューアル計画のコンセプトを以下のように設定する。

「春の花なら吾妻山公園」

平成18年度と19年度のデータによると、年間入園者の約5割が1月から2月の2カ月間に来園している。この時期には展望台付近に菜の花が咲くため、菜の花越しに雪を頂く富士山を眺められ、絶好の撮影ポイントになる。菜の花の後には、サクラ、ツツジと続き、1月から5月の5ヶ月間で年間入園者の約8割近くを占める。まさに春の吾妻山公園といえる。しかしながら、人出の多い菜の花のシーズンは1月から2月までであり、本格的な春のシーズンに菜の花ほどの人出は無く、やや魅力に欠けるところがあることから、菜の花に続く新たな春の花を導入し、春の吾妻山公園の魅力度アップを図る。

2) 計画のテーマ

設計条件に基づき、計画のテーマを以下の通りとし、リニューアルに向けての整備の方向性を明確にする。

- ・既存施設のリニューアルによる安全性と利便性の向上
- ・バリアフリーによるアクセスの向上
- ・観光資源としての魅力度の向上

3) 計画の基本方針

計画のコンセプト並びにテーマを受けて、基本方針を以下のとおりとする。

① 老朽化した施設の改修により利用者の安全に配慮したより利便性の高い公園づくり

- ・遊具、建築物、その他公園施設についての劣化度調査結果に基づいて改修方針を明確にし、安全・安心に配慮した施設の改修を行う。
- ・小動物園と隣接する展望台一帯は近年利用されることが少なくなっており、新たに魅力的な施設として全面的なリニューアルを行う。

② 車椅子や高齢者の人にも利用しやすい公園づくり

- ・誰もが吾妻山からの展望を楽しめるようにするために、管理棟から展望台への園路のバリア

フリー化を進める。

- ・管理棟・休憩所、トイレについて車椅子で利用できるような施設の配置と施設のバリアフリー化を行う。
- ・駅方面からの利用者が多いため、特に高齢者の利用を容易にするための園路整備を進める。

③ 観光資源としてより魅力度の高い公園づくり

- ・吾妻山公園は菜の花で有名な公園である。菜の花は春をイメージさせる植物であることから、春は吾妻山公園というイメージをより高めるために、3月～5月の春本番に特色のある花で観光客を惹きつけられるようにする。
- ・広く情報の提供を通じて集客アップにつなげるために、山頂付近にウェブカメラを設置する。
- ・利用者の利便性向上のために園内放送設備を整備する。

④ 展望が楽しめる公園づくり

- ・かつての山頂付近や園路などからの展望を取り戻すために、樹木の適切な間伐や剪定を行う。
- ・駅や国道など、市街地から公園への眺めを改善し、観光客の集客アップにつなげる。

⑤ 風致公園との連携により二宮町の魅力度の向上に貢献する公園づくり

- ・本町の観光資源として、新たに整備される風致公園と連携して二宮町の魅力を高められるような工夫、たとえば春は吾妻山公園、秋は風致公園という具合に、観光資源として相互に補完しあえるような関係づくりや、二つの公園をつなぐ連絡路の整備やサインの設置、情報の共有化等、可能な対応行う。

3. バリアフリー化の検討

バリアフリー化が求められている場所と整備のありかたを以下に示す。

1) 管理棟・トイレから展望台にかけてのバリアフリー化

① 管理棟・トイレ及び駐車場のバリアフリー化

老朽化し、バリアフリー化が必要な管理棟並びにトイレは、再整備を行うこととする。本公園の場合は、既存の二宮口から現在の管理棟付近までは、階段と勾配のきつい斜路が続き、その間のバリアフリー化は困難であり現実的ではない。一方、中里口からの園路についても同様であり、身体の不自由な方達にとっては利用が困難な状況にある。

そこで、管理棟並びにトイレの再整備にあたっては、周囲の施設との関係性や整備時期、整備の順序等を念頭に再整備場所の選定が必要となる。その際には特に園路との関係が重要となり、出来る限り園路の拡幅や歩きやすい舗装に改修するなどの歩行者へ配慮を図る一方、車いす利用者などに対しては、車両での移動を考慮し、管理者並びにそれら身障者を対象とした許可制の駐車場の整備を図ることとする。施設の配置と整備にあたっては、バリアフリー新法に遵守した整備を図ることとする。なお、管理棟に隣接するトイレはバリアフリー化し、土壤浸潤方式の環境対応型として整備する。

② 管理棟から展望台へのバリアフリー園路

再整備された管理棟並びに許可制の駐車場から展望台に至るルートは、バリアフリー化を図りユニバーサルな再整備を行う。バリアフリー化にあたっては、管理棟（標高 120 m）から展望台（標高 137.6 m）までの区間を縦断勾配 8 %以下の園路により連絡すると園路の距離は、全体で約 260 mとなる。

なお、その際の問題点は、バリアフリー園路の延長がやや長すぎる点と園路整備のために斜面の造成が必要になることである。高齢者の歩行や車いすの走行には長い園路であるため、なるべく気持ちの安らぐ園路にすべく、造成法面を植物で修景したり、途中で休憩場所を設けるなどの工夫が必要である。また、園路の片側に、手すりをつけることも検討する必要がある。

2) 小動物園一帯のバリアフリー化

① トイレと駐車場のバリアフリー化

再整備を予定している小動物園一帯に関しても、上記同様中里口からの平均勾配 12.8%の改善は困難であることから、車いす等に対応した身障者用の許可制駐車場の整備とトイレの再整備によるバリアフリー化を図ることとする。トイレは自己完結方式の環境対応型とする。



富士山、丹沢への展望のための間伐伐採エリア

春の花による魅力度UP
 カリフォルニアポピーの花畑 (4~5月)
 カリフォルニアポピーのイメージ

魅力度アップのための方策

魅力度アップ (アクセスの改善と第2展望台の設置)



海への展望のための間伐伐採エリア



Ⅲ－３．リニューアル基本計画

1. リニューアル施設内容

1) 施設配置の再整備によるリニューアル

①園路

基本的に既存の園路を活かしたリニューアルを行う。具体的には、園路の幅員が十分でない箇所は拡幅、舗装の劣化したところの再整備、急勾配により身障者等の通行に支障をきたす場所については、前述の検討の通り勾配を改善した新設の園路に付け替えるものとする。なお、入口部には、新たに南側からやや緩やかな勾配で登ることの出来る竹林の中の既存の山道を利用した園路を設ける。さらに、この山道を利用した新設の園路を既存の階段に並行して設け、迂回路とする。

②小動物園の改修

現在小動物園として整備されている広場は、閉鎖し動物舎を撤去することで広場を確保し、既存地形を出来るだけ活かしつつ休憩ピクニックエリアとして再整備する。広場内には、ポピーの花畑を設け、春の観光客に対する魅力付けを図る。他に自己完結型のバイオ処理式のトイレ並びに管理者と身障者用の駐車場を設ける。なお、身障者に対しては、車での利用の利便を図ることから休憩ピクニックエリアと管理棟に付帯させて駐車場を設け、許可制によって自動車利用を図ることとする。さらに、二宮ブランド売り出しの一助として、臨時売店を設置する。臨時売店の整備は、臨時売店の運営者を誰にするかなど、検討課題があるため、具体化への進展の中で今後検討することとする。

③遊具

遊具は、ローラー滑り台を除き全て撤去し、ジャンボエイトに代わる遊具の再整備を図ることとする。なお、遊具を再整備する場所は、既存の管理棟の改築並びに園路の付け替えに伴い、利用者の安全性と安心の確保を図る観点から、新設管理棟から視認しやすい場所として、新設管理棟の南側のローラー滑り台の近くとする。

④管理棟

老朽化並びにバリアフリーの観点から管理棟の再整備を行う。再整備にあたっては、吾妻山頂上に近づけることや園路の付け替え等に伴い北側に移動する。付帯施設として障害者用及び管理用の駐車場と臨時売店の設備を設ける。

⑤トイレ

既存の管理・トイレ棟は、出入り口が階段であり、トイレは狭く柱の腐食がある。よって、それらは解体撤去し、バリアフリーのトイレに建替える。管理棟脇に建替えるトイレは土壌浸潤方式の環境対応型とし、一方、休憩ピクニック広場に建替えるトイレは、自己完結方式の環境対応型トイレとする。

トイレの規模について吾妻山公園の一日当たりの利用者数から設定する。

2) 施設の改修によるリニューアル

①コンクリート園路舗装

公園内のコンクリート舗装は各所にクラックや2 cm以上の段差が見られ、危険であることから、早急な改修を図る。

②土系園路舗装

土系舗装（セメント改良）は老朽化により全体的に破損し、長年の雨水による浸食で凸凹になっている。2 cm以上の段差が各所に見られることから、全面的な改修を図る。

③ベンチ・野外卓

ベンチは、いずれも座面が腐朽し、全体的に著しい劣化が見られることから、改修によるリニューアルを図る。

野外卓は、天板が完全に腐朽、取り外されており、野外卓としての機能を果たしていないことから、改修によるリニューアルを図る。

④フェンス・転落防止柵

フェンスは、柱や支柱に錆が見られ、網はゆがみの他破損部から針金が飛び出すなど、危険な個所があることから、改修によるリニューアルを図る。

転落防止柵は、柱の根際に錆、網の接合部の一部に腐食や欠損が見られ、また、転落防止柵としての基準（1.1 m以上）を満たしていないため、改修によるリニューアルを図る。



⑤ロープ柵

ロープ柵は、樹林や危険個所への侵入防止を目的とした目印として設置され、非常に簡易な構造であり、且つ柱のぐらつきや傾きが随所に見られる。今後管理棟の駐車場まで車両が通行することから、より丈夫で視認しやすい柵への改修によるリニューアルを図る。



⑥遊具

ローラー滑り台は、子ども達に人気があり、柱に一部塗装の剥がれが見られるが、ほとんど改修の必要は無い。ローラー滑り台を滑り降りた子供たちが、滑り口へ戻る園路を整備する必要がある。

⑦四阿

小動物園脇の丘にある四阿は老朽化が激しいため撤去し、そのあとにベンチ等の休憩施設を設置する。ポピーの花畑や遠く富士山や丹沢などへの展望が得られるように、周囲の樹木を間伐剪定する。

役場前の階段を上りきったところの四阿と中里口に近い四阿は、一部劣化が見られるため、改修を行う。

3) カリフォルニアポピーの導入

小動物園跡地の東向きの斜面に、段々の地形を生かしたポピー（カリフォルニアポピー）の花畑をつくる。菜の花が終わった後、花の季節はサクラ、ツツジ、アジサイとつづくが、サクラやツツジは近隣都市に昔から名の知れた名所があることから、吾妻山はさほど多くの観光客を惹きつけられずにいる。サクラやツツジに加えて、4月の後半から5月いっぱいにかけて観光客を惹きつけるものとして、ポピーの中では最も花期が長いカリフォルニアポピーを導入することとする。

カリフォルニアポピーの選定にあたっては、近隣の事例を参考にするとともに、シバザクラ等の候補との比較検討により決定した。

	カリフォルニアポピー	シバザクラ
近隣との競合	ほとんど競合しない	海老名市の県立相模三川公園他
花期	4月後半から5月いっぱい	4月後半から5月いっぱい
維持管理	1年草としての管理 耕耘・播種・除草・抜取りなど	多年草としての管理 除草、夏の間引き等
その他	裏作としてコスモスなどの導入が可能	—————
総合評価	◎	○



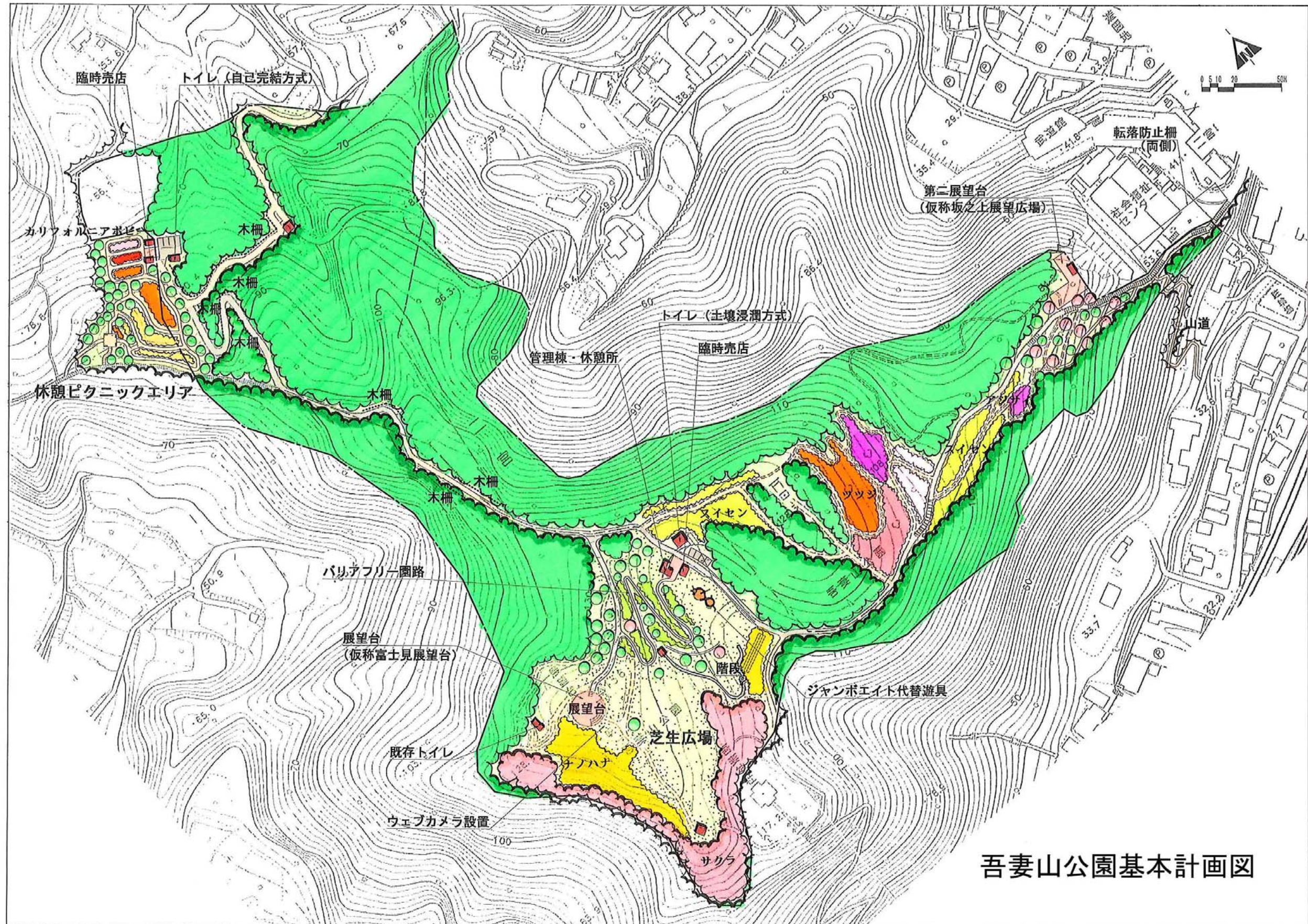
なお、公園の維持管理の中で、花の維持管理はボランティアによって実施されている事例が見られる。従来から、公園愛護会やボランティアの市民団体が公園の花の維持管理をしてきた例はあるが、近年はアダプト制度で実施されている例も見られる。高齢化社会が進むわが国においては、ますます元気な高齢者が社会との接点を維持するために様々な社会活動に参加しつつあり、公園の花の維持管理もこうした高齢者の活動の場として大いに活用していくべきであると思われる。一方、地元小中学校の環境教育の一環として、分球作業のお手伝いや除草、開花状況の調査など本公園を課外授業の場として活用し、公園を身近に感じてもらう活動や地域住民自らが公園の管理と運営に参加し、清掃や除草のみならず地域の中核施設として様々な運営に係わることで、管理費の軽減だけでなく地域に密着した文字通りの中核施設となるよう公園経営を推進する事が今後の維持管理にとって重要となる。

住民参加・協働による公園管理の事例

項目	公園愛護会	アダプト制度	公園ボランティア
参加者	自治会、町内会、老人クラブ、婦人会、子ども会など主に地域コミュニティ団体が主体。	地域コミュニティ団体に限らず、学校や企業、個人、家族、グループなどは幅広い参加者。	地域コミュニティに限定されない広域からの参加、活動に興味がある不特定多数の参加。
活動場所	街区公園、近隣公園などの身近な公園が中心。	公園のほか、道路、河川などを含めて制度化している事例が多い。	広域公園など、郊外立地型の比較的規模の大きな公園が多い。
活動内容	清掃、除草・草刈、遊具の破損等管理情報の提供、不適切な公園利用への注意など。	清掃、除草、花壇・植栽の世話など。	ビオトープや里山管理、特定動植物の保全、農作業、伝統遊びの継承などテーマ性が強い活動。
活動の特徴	地域に密着した活動なので、公園に愛着をもって、日常的な見守りなどプラスアルファの管理も期待できる。 住民同士の関係が希薄な場所では活動が進まない。 20～40代の青年・壮年層の住民の参加が少ない。	市民から見ると、組織に組み込まれず、リーダー的責任はなく、できるときに参加できる参加のしやすさがある。 子どもから高齢者までは幅広い世代、地域的にも広域にわたって参加者を集めることができる。	活動テーマ、内容等に共感して自発的に参加し、活動をとおして知識・技術の習得、人との交流、生きがいなどの面でも満足感を得ている。 会の運営や活動内容に参加者が積極的に関与し、自主的活動が行われる。
行政からの支援	報償金等の支払い、用具、機材等の提供、貸与など。	報償金等の金銭的支援はない。 用具、機材等の提供、貸与など。	用具、機材等の提供、貸与、活動の拠点となる場の提供、技術面や組織運営面での助言、活動のPRなど。

2.リニューアル基本計画図

リニューアル基本計画図を以下に示す。



IV. 吾妻山公園基本設計

IV-1 与条件の細部検討

1. 供給処理施設についての調査

1) 水道

① 現況

本公園内の現況の水道施設並びに配管は、以下の通りである。

- ・受水槽は、町役場前の二宮口と神社裏の2か所にある。まず二宮口の受水槽に一旦貯水し、そこからポンプで神社裏の受水槽へ圧送し、さらにポンプで圧送して各施設へ給水している。
- ・給水先は、以下のとおりである。

管理棟・トイレ、展望台裏と小動物園のトイレ、水飲み、散水栓

2) 電気

① 現況

本公園内の現況の電気利用施設並びに電気供給系統は、以下の通りである。

- ・町役場前の受水槽脇の引き込み盤から、管理棟方面と神社裏の受水槽方面の2系統で電気を送っている。ケーブルサイズは資料が無いため不明である。電力の消費施設は以下のとおりである。

受水槽(2か所)、管理棟・トイレ、展望台裏トイレ

- ・小動物園は、近くの東京電力柱より直接引き込んでいる。資料が無いため、ケーブルサイズは不明である。電力の消費施設は以下のとおりである。

小動物園詰所、倉庫、トイレ

3) 汚水処理

① 現況

公園内にトイレは3ヶ所あるが、管理棟トイレの利用が最も多い。3か所すべて、同じ汚水処理方法を用いている。その方法の概要は以下のとおりである。

トイレ → 単独処理浄化槽 → 三次処理装置 → 毛管浸潤トレンチ

IV-2 基本設計の検討

1. バリアフリー関連の整備計画

1) 基本方針

本公園は、本計画のテーマである「バリアフリーによるアクセスの向上」を図り、計画の基本方針に掲げた、「車椅子や高齢者の人にも利用しやすい公園づくり」を進める。したがって、バリアフリー新法に遵守するとともに、バリアフリー関連の整備計画の基本方針は、以下の通りとする。

- ・老朽化した管理棟とトイレは、バリアフリー新法に則った管理棟並びにトイレに作り替える。
- ・管理棟から展望台に至る園路は、バリアフリー化によって勾配8%以下を確保する。
- ・管理棟脇に許可制の駐車場を設け、中里口から管理棟まで身障者に対するサービスとして、許可車両による移動を可能とする。

2) 管理棟・休憩所、トイレ、バリアフリー園路の配置

① 管理棟・休憩所

- ・管理棟・休憩所の再整備にあたっては、公園中心部におけるバリアフリー化を考慮した配置とする。

② トイレ

- ・管理棟脇のトイレの配置にあたっては、第1期工事であることから、既存の施設や動線の利便性を考慮し、かつ将来の管理棟・休憩所のバリアフリー化に伴う再整備との整合を考慮した位置に配置する。トイレの規模、汚水処理方法は以下のとおりとする。
- ・男子：大2小2、 女子：大3、 障害者用：大1
- ・土壌浸潤方式

③ バリアフリー園路

- ・管理棟から展望台まで車いすでの利用が出来るよう8%以下の園路を配置する。

2. 造成計画

1) 基本方針

計画地における造成は、大部分がバリアフリー園路の整備に伴って生じるものである。そこで、造成の基本方針を以下のとおりとする。

- ・主に斜面にバリアフリー園路を設けるために造成が発生するが、その場合も極力造成とそれに伴う既存樹木の伐採を少なくするようにする。
- ・バリアフリー園路の造成では切土量の方が多く発生するが、管理棟や遊具の改修エリア一帯では敷地の平坦化の作業に盛土を必要とすることから、そうした場所の敷きならし造成のために活用することで園内の造成土量をバランスさせる。

2) 造成土量

切土、盛土の土量は以下のとおりである。

切土量： 2,900 m ³
盛土量： 2,900 m ³

3. 施設計画

1) 遊具の改修計画

遊具の改修はジャンボエイトについてのみであることから、改修にあたっての方針を以下に示す。

- ・既存のジャンボエイトは子供たちに人気があることから、同様の形状と機能を併せ持ったものとする。
- ・長期にわたって維持管理費や手間を軽減するために、特に基礎の部分の構造や本体の主要構造材は傷みにくい材料とする。

2) 園路、休憩施設、管理施設の改修計画

① 撤去、改修する施設の一覧

撤去・改修する施設は以下のとおりである。

【撤去施設】

- ・アスレチック遊具
- ・小動物園四阿
- ・小動物園詰所、動物小屋
- ・小動物園フェンス

【改修施設】

- ・四阿（第二展望台）
- ・舗装（二宮口～管理棟の間）
- ・舗装（管理棟～中里口）
- ・案内板盤面
- ・滑り台詰め所
- ・展望台
- ・展望台裏トイレ
- ・中里口四阿

【撤去・改修施設】

- ・鉄製柵（二宮口付近）
- ・ネットフェンス（二宮口付近）
- ・管理棟・トイレ・休憩所
- ・ジャンボエイト
- ・ロープ柵（管理棟～中里口の間）
- ・小動物園トイレ
- ・ベンチ

【その他】

- ・樹木の間伐・剪定（5箇所）
- ・園路拡幅（二宮口付近）
- ・園路拡幅（管理棟～小動物園の間）

4. 給水設備計画**1) 基本方針**

給水計画の基本方針は以下のとおりである。

- ・既存の給水管を活用する。
- ・既存の給水管から分岐し、それぞれの施設へ給水する。
- ・給水を必要とする施設は以下のとおりである。

管理棟

便所（3箇所）

既存の水のみ

散水栓（新たに、ポピーの花畑用に増設する）

5. 電気設備計画

1) 基本方針

- ・施設の老朽化に伴い段階的な整備を図る。

2) 段階整備

各施設の老朽化に伴い新設施設を段階的に整備する。

- ・平成 22 年度計画 管理棟脇にトイレを新設
- ・平成 23 年度計画 既設管理棟を撤去し、管理棟・休憩所を新設
- ・平成 24 年度計画 小動物園側の既設屋外トイレを撤去し、トイレを改築

① 計画設備項目

- ・電灯幹線 設備
- ・電話用配管 設備
- ・放送 設備
- ・Webカメラ用配管 設備

② 電灯幹線設備

施設整備は多年度に亘るためそれに伴う各施設への電源供給を検討する。ただし、小動物園側トイレは別引込であるため別途電源供給を検討する。また、動力設備(受水槽×2ヶ所)は既設のままであるため電源は既設を使用する。

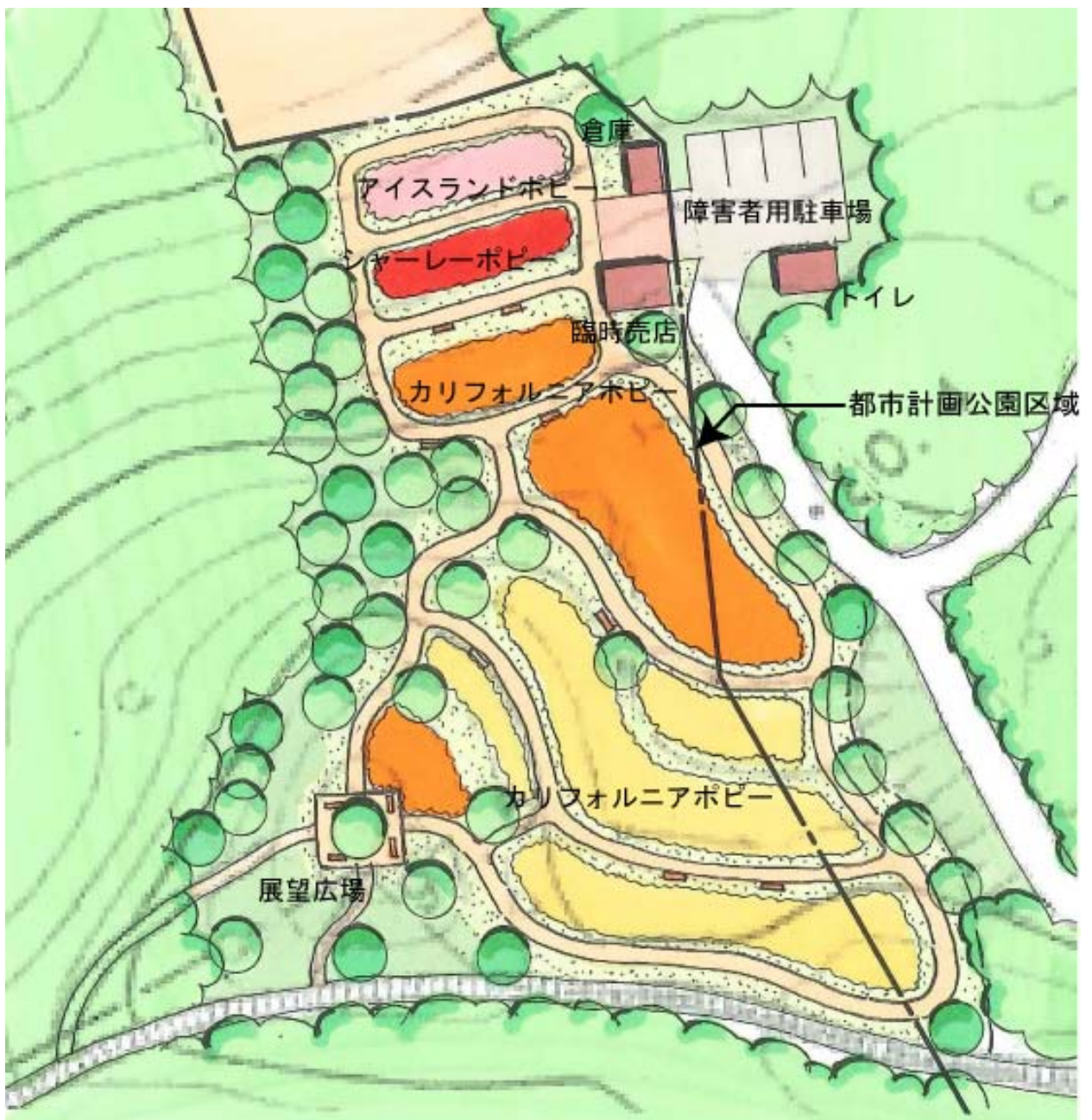
6. 植栽計画

1) 基本方針

- ・小動物園跡地に新たに休憩・ピクニックエリアを整備し、公園の新たな魅力の1つとする。
- ・休憩・ピクニックエリアには公園の春の花の魅力向上を目指してカリフォルニアポピーを主とする花畑を設ける。
- ・管理棟脇のバリアフリー園路の整備で造成された斜面は、地被や低木などの植栽で修景を図る。

2) 小動物園跡地のポピーによる花畑修景

- ・ポピーによる修景のイメージを以下に示す。



IV-4 整備年次計画の立案

本公園の整備にあたっての年次計画を以下の通り立案した。

工事年度	工事内容	概算工事内容	概算工事費 (諸経費・税込み)	計算根拠	備考
平成 22 年	予算 31,000,000 ・管理棟付近トイレ改築	トイレ建替え(規模の縮小が必要) 無放流土壌浸潤汚水処理設備 電気引き込み 敷地造成 トイレ周り舗装	12,300,000 16,000,000 2,200,000 300,000 200,000 計 31,000,000	$10,000,000 \times 0.9 \times 1.3 \times 1.05$ $13,000,000 \times 0.9 \times 1.3 \times 1.05$ $1,600,000 \times 1.3 \times 1.05$ $200,000 \times 1.3 \times 1.05$ $150,000 \times 1.3 \times 1.05$	
平成 23 年	予算 50,000,000 ・管理棟建替え ・管理棟付近園路のバリアフリー化 ・遊具一部更新 ・展望台付近整備	管理棟解体処分 管理棟・休憩所建替え 管理棟・休憩所への電気引き込み 敷地造成 伐採・伐根・処分 バリアフリー園路 放送設備用管路(建物周りのみ)	1,600,000 20,000,000 6,300,000 3,200,000 3,500,000 14,000,000 300,000 計 48,900,000	$1,000,000 \times 0.9 \times 1.66 \times 1.05$ $40 \text{ m}^2 \times 500,000$ $3,600,000 \times 1.66 \times 1.05$ $1,800,000 \times 1.66 \times 1.05$ $2,000,000 \times 1.66 \times 1.05$ $(1,300,000 + 1,500,000 + 5,200,000) \times 1.66 \times 1.05$ $150,000 \times 1.66 \times 1.05$	(諸経費率約 66%) ※伐採・抜根・処分は 20 本×10 万で計算 ※舗装・縁石・手すり
平成 24 年	予算 50,000,000 ・小動物園付近整備 ・トイレバリアフリー化	建物解体処分 トイレ建替え(6 穴) 循環式汚水処理設備 施設撤去 敷地造成 電気設備 給水・散水設備 駐車場整備 花畑整備 管理棟脇駐車場整備 ジャンボエイト撤去 アスレチック遊具撤去 展望台改修	4,000,000 11,000,000 16,000,000 300,000 1,200,000 870,000 4,000,000 1,100,000 1,500,000 1,200,000 3,500,000 2,200,000 1,800,000 計 48,670,000	$3,300,000 \times 0.9 \times 1.3 \times 1.05$ $9,000,000 \times 0.9 \times 1.3 \times 1.05$ $13,000,000 \times 0.9 \times 1.3 \times 1.05$ $170,000 \times 1.66 \times 1.05$ $700,000 \times 1.66 \times 1.05$ $500,000 \times 1.66 \times 1.05$ $2,300,000 \times 1.66 \times 1.05$ $650,000 \times 1.66 \times 1.05$ $840,000 \times 1.66 \times 1.05$ $650,000 \times 1.66 \times 1.05$ $2,000,000 \times 1.66 \times 1.05$ $1,250,000 \times 1.66 \times 1.05$ $1,000,000 \times 1.66 \times 1.05$	(諸経費率約 66%) ※フェンス ※アスファルト舗装、縁石 ※アスファルト舗装、縁石 ※園路の取り付け部改修
平成 25 年	予算 70,000,000 ・遊具 ・園路新設・改良 ・第 2 展望台付近整備	ジャンボエイト更新	30,800,000 計 30,800,000	$20,000,000 \times 0.9 \times 1.63 \times 1.05$	(諸経費率約 63%)

V. 地域活性化を図る公園ネットワークの検討

吾妻山公園と風致公園の2つの公園は、緑の基本計画で示された物理的な「緑のネットワーク」のみならず、本町住民の生活や暮らしに直結する経済的な活性化や豊かさの実感をはじめ他地域の人々に本町を知ってもらうための様々な受発信をする場としても活用されなくてはならない。公園は、緑の基本計画で謳われている4つの系統による機能ばかりではなく「公園を有効に利用すること」で地域住民の元気に繋がるものとなる。特に、風致公園は、本町の顔となる地区を代表する施設として位置づけられており、緑豊かで美しい町並み景観と歩いて楽しい花と緑のネットワーク形成等、誰もが快適に過ごせる空間の創出が期待されている。

そこで、本年度の2つの公園の計画にあたっては、既に多くの首都圏住民に親しまれている「吾妻山公園」と市街地を挟んで東に位置する「風致公園」を有効に利用することで本町の活性化に繋がれるよう今後も検討を進めることが重要である。ここでは、方向性を示すこととする。まず、地域の活性化にとって重要なことは、各公園それぞれが魅力度を向上させた整備の充実であることは言うまでもないが、本年度計画で行った様々な検討の結果を踏まえ整備を進めることによって各公園は充実したものとなる。例えば、突出して春に集客力の高い吾妻山公園に対し、風致公園の整備にあたっては、秋の集客を目的とした整備を行う事で年間を通した本町への観光客の誘致が図られることになる。これらの目標を推進した上で、以下の点についての充実を図ることが必要となる。

第一に、市街地を挟んで本町を代表する2つの公園が整備される事を契機として、相互のわかりやすい連絡を図ることである。単に連絡道を指定するだけでなく、安全に楽しく歩ける道を整備するとともに、様々な情報に接することのできる道とすることである。例えば、案内板の設置による歩行者の誘導のみならず、路面に判りやすい案内表示やサインを付けることで、それをたどれば自然と相互の公園にたどり着く演出をはじめ、見所、地域の物産などの情報を盛り込むことで利用者に親しまれる連絡道の整備を図る。

第二に、それら「連絡道」と「情報網」を幹として枝葉の充実を図ることが重要となる。つまり、連絡道としての道の整備は、安心して歩けるわかりやすい道の整備であり、それは「最も歩きやすい道」を既存の道から選定して連絡道とすることである。その際に重要なことは、判りやすい案内標識などのインフォメーションの整備充実であり、安心して歩ける環境づくりである。それに加え、「歩くための楽しみ」も必要となる。歴史文化財や地域の産物を販売する「物販施設」、食事処や楽しい商店など案内標識と共にそれらの情報も提供することが重要である。そして、それらは、「最も歩きやすい道」として選定された「道」以外に面的に広がっていくことが大切であり、その結果、人々が豊かになり地域が活性化する事に繋がる。すなわち「地域の活性化」は、公園づくりを契機として、地域の様々な要素や関係が表に引き出され、新たな価値として見直されることにある。

よって、図に示す周遊コースは、2つの公園を連絡するひとつの例をして示したものであり、「地域の活性化」と言った視点で、今後さらに検討が必要である。

観光資源(吾妻山公園、風致公園)のネットワーク化

